

第1学年 生活科学習指導案

平成26年10月28日 3校時
仙台市立東四郎丸小学校 1年2組
授業者 佐藤 裕子

1 小单元名 あきをさがそう

2 小单元のねらい

○秋の樹木、虫などに関心を持ち、それらを観察したり、木の実を集めたりしようとすることができる。
(生活への関心・意欲・態度)

○諸感覚を使って秋の動植物を観察し、変化の様子を振り返ってそれを友達と話すことができる。
(活動や体験についての思考・表現)

○秋の草花や樹木、虫などの様子が夏から秋へ移り変わっていることに気付くことができる。
(身近な環境や自分についての気付き)

3 小单元について

(1) 題材について

本单元は学習指導要領の内容構成に関わる生活科の具体的な視点の「情報と交流」「身近な自然との触れ合い」「時間と季節」を受けて構成した。特にこの小单元の中心となる「身近な自然との触れ合い」の身近な自然とは、児童の身の回りにあって、児童自身と関係の深い動植物、事前の事物や現象、季節による様々な変化などである。とりわけ秋は、一年の中でいちばん季節の変化を感じることができる。子供たちは、見る、聞く、触るをはじめとする様々な感覚を使って、その秋を体全体で感じ取り、自然の美しさ、不思議さや面白さなどの自然のすばらしさに気付くことができるようにさせたい。また、自然を利用した遊びは児童が素直に対象に関わっていくことができる活動である。特に、思いや願いを強く抱いて遊ぶ中で、児童は、対象への働きかけや友だちとの協力の仕方など様々なことを学ぶ。このような活動や体験を通して、自然を大切に作る心も育てることができる。児童が身近な自然とかかわり合い、児童の創造的な発想や工夫が生かされ、遊びや生活が豊かなものになっていくことを大切なねらいとしている。

(2) 児童の実態

自然とのかかわりについて

本学級の児童は外遊びを好み、休み時間になると全員が外に出て遊ぶ姿が見られることから、子供たちにとって校庭は身近な場所といえる。校庭では虫を捕まえて来たり、草花を採って来たりと自然に興味を持ち遊んでいる児童もいる。

児童はこれまで、春と夏に校庭を散策に出かけ、草花や虫を探したり、草花で遊んだりする活動を行ってきた。これらの活動を通して、自分の身近な自然に興味を持ちはじめた児童が多い。また、アサガオやサツマイモの栽培を行うことによって、植物の成長過程に興味を持ち始めた。「はじめは黒い小さい種なのに、どうやって花になるんだろう。」「どのくらいで芽は出るんだろう。」「芽が出るまでぼくたちができることって何だろう。」と自分たちで考えながら積極的にアサガオやサツマイモに水をやる姿が多く見られた。成長の過程を実際に自分の目で見ていくうちに、「植物も生きている。私たちと一緒にだね。」など、植物もどんどん変化をしているということに気付くことができた。

ICTの活用について

① 教師の活用

これまで、国語や算数でデジタル教科書を使いながら学習を進めてきた。字を読むことがまだ十分にできないために拡大してなぞり読みをさせたり、動画資料を見せ、書かれてある事柄のイメージを持たせたりする場面で活用した。

生活科でのアサガオの観察の際には、デジタルカメラを活用した。児童が観察カードに書いた事柄を全体で共有するための活用や、児童の発表の際に写真を見せながら説明させるといった活用を行った。また、以前に撮っておいたアサガオの画像とその日に撮ったアサガオの画像を比べて変化の様子を見たり、カメラのインターバル撮影を使ってツルが支柱に巻き付いていくところや花が開

くところを見たりすることができた。

② 児童の活用

児童はこれまで、デジタルカメラを活用してきた。

国語では、遠足で動物園へ行った際に自分たちで興味を持った動物の写真を撮り、帰って来てから書く作文の材料とした。

生活科では、夏の校庭の様子を写真に撮り、見付けたことを写真を見せながら発表を行った。

児童の課題

自然の四季による変化には何となく気付いてはいるものの、自然の面白さ、不思議さやそれによって自分たちの生活が変化していることに気付いている児童は少ない。また、友達とのかかわり合いの中で遊びを工夫したり、自分の思いや願いを持って活動したりするまでには至っていない。

(3)指導にあたって

単元を通して、子供たちが「こんなことが知りたい。」「見つけたドングリで遊びたい。」など、自分の思いや願いを持って活動できるようにしていきたい。そのためにこの小単元では、自然の変化・おもしろさについて気付かせていきたい。そこで、この小単元を「身近な自然に触れる段階」「身近な自然に気付く段階」「気付きを共有する段階」と3つの段階に設定し、次の小単元「はっぱやみであそぼう」で子供たちが自分の思いを持って活動できるようにすることにつなげていく。

身近な自然に触れる段階

一年を通して校庭の散策を行ったり、校庭の草花で遊んだり、虫を捕まえたりすることで、子供たちが自然に触れる機会を多く設け、自然との触れ合いを深めていく。

身近な自然に気付く段階

何となく見付けた子供たちの気付きを四季の変化として自覚させていきたい。そのために、教師が子供たちのつぶやきや思い、気付きをしっかりと聞き取り、見取ることが重要であると考え。そしてそれを認めて子供に伝えることによって気付きとして自覚させていく。

気付きを共有する段階

それぞれのグループの気付きを全体で共有することによって、自分が知らなかった自然の面白さや不思議さを感じさせ、次小単元への活動の意欲を持たせていく。

以上の点をふまえ、本小単元の活動にあたって以下の点を工夫していく。

手立て1 様々な感覚を使って自然に触れさせる工夫

- ・写真を撮りに行く際に「目」「鼻」「耳」「手」などの具体的な視点が入っているワークシートを持たせ、メモをしながら観察させる。
- ・夏のことを想起させる際にも、「目」「鼻」「耳」「手」などの具体的な視点を示す。

手立て2 気付きを促し、深めていく工夫

- ・夏の校庭の写真をデジタルカメラで撮りためておき、比較をさせる。(気付きを促すための ICT 活用)
- ・何となく見ているだけでは気付かないところを拡大して見せる。(気付きを促すための ICT 活用)
- ・子供たちの発表の場面で、言葉だけでは足りないところをテレビに写真を写しながら補足し、気付きを深めていく。(気付きを深めるための ICT の活用)

手立て3 見取るための工夫

- ・事前に子供たちがどんなことに興味を持っているかということ子供たちが撮った写真を見ながら押さえておく。
- ・毎時間の終わりに振り返りカードに感想を書かせる。

4 指導計画 小单元名 あきをさがそう (全4時間扱い 本時3/4)

	時	主な学習活動	指導上の留意点	評価規準
身近な自然に触れる段階	1	○校庭の秋を探そう ・校庭で草・花・虫など秋になって変わったことを探す。 ・見つけた秋をグループごとにデジタルカメラで撮る。 ・撮ってきたもの Wi-Fi SD カードを使って共有する。	・始めに自分たちが夏に撮って来た写真を見せ、夏の様子を思い出させる。 ・自分が夏に撮って来た場所にこだわらず、気になったところを撮って来させる。 ・撮ってきた画像を Wi-Fi SD を使ってすぐに全体で共有し、校庭の様々な場所に目を向けさせる。 (手立て2) ・振り返りカードに感想を書かせる (手立て3)	【関心・意欲・態度】 体全体を使って身近な自然と触れ合おうとすることができる。 (観察・カード)
	2	○秋の校庭はどう変わったかな ・夏に発見したことを思い出しながら、写真を撮る。	・夏の校庭の様子と比べて、秋の校庭の様子が変わっているかということを意識させて写真を撮って来させる。 ・「目」「鼻」「耳」「手」などの具体的な視点が示されたワークシートを使う。 (手立て2) ・振り返りカードに感想を書かせる。(手立て3)	【思考・表現】 諸感覚を使って初秋の植物や虫を観察し、夏の頃との変化の様子について気付くことができる。 (観察・カード)
身近な自然に気付く段階	3	○夏の校庭と秋の校庭を比べよう ・グループごとに、写真を見ながら変化を画用紙にまとめていく。 ・発表をする。(1～2グループ)	・ワークシートや写真を使って、見付けてきた変化を整理させる。 ・テレビに画像を映して、言葉だけでは伝わらない部分を補う。(手立て2) ・振り返りカードに感想を書かせる (手立て3)	【思考・表現】 変化の様子を振り返り、それを友達と話すことができる。 (観察・ワークシート)
	本時	○秋を発見！発表会をしよう。 ・自分たちの発見を写真を使いながらみんなに伝える。	・子供たちの気付きを板書にまとめていく。 ・テレビに画像を映して、言葉だけでは伝わらない部分を補う。(手立て2) ・振り返りカードに感想を書かせる (手立て3)	【気付き】 季節によって自然が移り変わっていく様子に気付くことができる。 (観察・カード・発言)
気付きを共有する段階	4	○秋を発見！発表会をしよう。 ・自分たちの発見を写真を使いながらみんなに伝える。	・子供たちの気付きを板書にまとめていく。 ・テレビに画像を映して、言葉だけでは伝わらない部分を補う。(手立て2) ・振り返りカードに感想を書かせる (手立て3)	【気付き】 季節によって自然が移り変わっていく様子に気付くことができる。 (観察・カード・発言)

5 本時の活動

(1)本時のねらい

季節によって自然が移り変わっていく様子に気付くことができる。(身近な環境や自分についての気付き)

(2)活動過程

<p>主な学習活動と 予想される児童の反応(○)</p>	<p>支援と指導上の留意点 ※太字の部分は ICT 活用場面</p>	<p>評価</p>
<p>1 前時までの活動を振り返る</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>なつのこうていとあきのこうていをくらべよう</p> </div> <p>2 グループごとに発見したことを画用紙にまとめていく</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作業についての説明を聞く ・グループごとに付箋を使いながら、それぞれが気付いたことを画用紙にまとめていく。 <ul style="list-style-type: none"> ○まつぼっくりの色が変わった。 ○咲いている花が変わった。 ○畑に植えてあるものが変わった。 ○木の葉っぱがなくなった。 ○夏と違う虫がいる。 ○どんぐりがある。 <p>3 発表をする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1～2グループの発表を聞きながら、夏から秋についての変化についてまとめていく。 ○まつぼっくりの色が変わった→変わっていないまつぼっくりもあった→葉っぱも色が変わったのと変わっていないのがあったよ。 ○どんぐりは夏にはなかった→夏にはなかったけど、秋にはできたものって他にあるかな。→夏にはいなかった虫がいた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時までの気付きをもとにした振り返りを行う。 ・「くらべる」とは違いを探したり、同じところを探したりすることを押さえさせる。 ・テレビに例を写しながら、子供たちが活動に見通しを持てるようにする。 ・「目」「鼻」「耳」「手」などの様々な感覚を使い、比べられるように声がけをする。 ・子供たちが言葉では説明できない部分を画像をテレビに写して補足していく。 ・必要に応じて画像を拡大しながら見せていく。 ・本時に発表できなかったグループは次時に発表することを伝え、他のグループの発表を自分のグループの参考にするようにさせる。 ・子供たちの気付きを整理しながら板書にまとめていく。 ・発表を聞いている子供たちのつぶやきをひろいながら、中身を広げていく。 	<p>【気付き】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・季節によって自然が移り変わっていく様子に気付くことができる。 <p>(観察・カード・発言)</p>

<p>4 活動を振り返る。 みんなの発表を聞いての感想を交流する。</p> <p>A</p> <p>○冬にはどうなるんだろう。 ○他に色が変わるものはあるのかな。調べてみたいな。 ○夏にいた虫はどこにいったんだろう。知りたいな。</p> <p>B</p> <p>○季節によって咲く花はちがうんだ。 ○秋になると出て来る虫もいるんだ。</p> <p>○秋になると葉っぱの色が変わるんだ。</p> <p>C</p> <p>○感想が書けない。 ○夏と秋を比べられない。</p>	<p>・カードに感想を書かせる。</p>	
--	----------------------	--

6 本時の評価規準

B 概ね満足できるとされる姿	A 十分満足できる児童の姿	C 支援を要する児童への具体的な手立て
<p>季節によって自然が移り変わっていく様子に気付いている。</p>	<p>季節によって自然が移り変わっていく様子に気づき、自分の思いを持つことができる。</p>	<p>画像やワークシート、板書をもとにして、一緒に考える。</p>

7 場の設定

